

ドクター メモ

インフルエンザ予防接種

発病・重症化防止に効果あり

気温が下がり、空気が乾燥し始めると、インフルエンザが流行する季節です。今回は、インフルエンザ予防接種の効果について見てみましょう。

今年のインフルエンザ予防接種には、A型で2種類(新型インフルエンザタイプとA香港型タイプ)、B型で2種類の計4種類が含まれています。

インフルエンザは皮下注射のため、予防接種で感染の防止はできませんが、発病防止や重症化防止の効果があります。ただし近年、年齢や流行するウィルスのタイプで、予防接種の効果に差があることが分かっています。慶応義塾大学病院小児科の研究チームは、次のように報告しています。

まず、小児の予防接種の効果は、(1)B型はやや低い、A・B型全体で50%程度の発病防止効果がある。(2)A・B型ともに50%以上の高い重症化防止効果がある。(3)1歳未

満の乳児への効果は示せなかった。

一方、成人や高齢者の予防接種の効果は、(1)A型の新型インフルエンザとB型には、50%前後の発病防止効果がある。(2)A香港型の発病防止効果は大幅に低下する。(3)A香港型に50%以上の重症化防止効果を認める。

以上から、この研究では「乳児を除き、小児・成人・高齢者に積極的にインフルエンザの予防接種を勧めるべき」としています。では、乳児への対策はどのようにすれば良いでしょうか。私は、家族など周囲の人が積極的に予防接種を受け、乳児にインフルエンザをつつさないように守ってあげることを勧めています。今年もインフルエンザが流行する前に、予防接種を受けて対策をとりましょう。